

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業

1. 提案事業概要

【事業名】	インドネシアにおける生態分野のネットワーク形成とキャパシティビルディングのためのワークショップ
(英語名称)	JSPS workshop to make network and capacity building of the ecological scientists in Indonesia
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	鈴木英治、教授、鹿児島大学・理工学研究科(理学系)
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催
【実施期間】†	2010年 7月 16日～ 2010年 7月 19日(4日)
【実施場所】†	インドネシア、バリ島
【参加国・地域】†	インドネシア、日本 等 2ヶ国・地域
【事業概要】	<p>提案者は2007年以来ITPの主担当教員、アジアからの招へいのコーディネーターとしてインドネシアを中心として、国際交流を重ねている。2009年度には鹿児島大学とインドネシア科学院生物学研究センターとの共同企画として、インドネシア生態学会とのJoint Workshopを開催した。これは、ITPで派遣した学生の発表を多くのインドネシア研究者に聴いてもらうと同時に、長らく休眠状態にあった同学会を活性化する目的もあった。このWorkshopにはインドネシアの9大学、5研究所・官庁、3NGOなどから合計81名が参加し、同学会は新たに出発することとなった。これを途切れさせずに継続することが重要であり、インドネシア側からの強い要望もあり本提案となった。インドネシアで生態学会を盛り上げる機運が高まっている今は絶妙なタイミングであり、ここで日本の関与を深めることは、将来的に日本側にも大きな意義がある。</p> <p>世界的にみても、インドネシアは生物多様性の宝庫であり、2010年度には名古屋でCOP10が開催され生物多様性保全が問題になっている中で、特に注目される地域である。しかし、その多様性の基礎となる生態系の全容は明らかでない。地方にも生態学研究者は存在するが、研究のほとんどが地方レベルの報告書として発表され、レベルも低く国際的には知られたものはわずかである。</p> <p>そこでインドネシア各地の生態学関連研究者約30名と、日本人研究者約10名が集まり、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) インドネシア生態学会の運営、日本との協力関係を議論する。 2) 生態学分野でも基幹となる植物生態を中心として、彼らがどのような研究を行い、どのようなデータを持っているかを発表してもらう。 3) その上で、調査方法の統一、生物の同定能力のレベルアップ、データ解析法等について、議論を深め共通のプロトコルで研究を進められるようにする。 4) 日本人研究者は、植物生態、GIS、リモートセンシング、DNAによる遺伝的多様性の解析法などについて、先端的な技法について紹介する。 <p>このWorkshopによって、従来は組織単独や個人レベルの交流が多かった日本とインドネシア研究者間に国レベルのネットワークを形成できる。また各地方に埋もれた研究、人的資源が分かり、調査法や同定能力の不備等の問題点が明らかになる。そして、それらの問題点を克服し、次の研究プロジェクトを立案する。将来的にはVegetation of Indonesiaなどの出版物として成果をまとめる。</p>